

◆結核

(1) 病気の説明

結核菌の感染で起こります。我が国の結核患者はかなり減少しましたが、まだ、2万人を超える患者が毎年発生しているため、大人から子どもへ感染することも少なくありません。また、結核に対する抵抗力（免疫）はお母さんからもらうことができないので、生まれたばかりの赤ちゃんもかかる心配があります。乳幼児は結核に対する抵抗力（免疫）が弱いので、全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残す可能性があります。BCGは髄膜炎や粟粒結核などの重症になりやすい乳幼児期の結核を防ぐ効果が確認されているので、生後6カ月までに受けることとなっています。ただし、先天的に免疫の力の弱い病気があると重い副反応が起こることがあるので、生後3カ月頃から接種することが多い状況です。

(2) BCGワクチン（生ワクチン）

BCGは牛型結核菌を弱毒化してつくったワクチンです。

BCGの接種方法は、管針法といってスタンプ方式で上腕の2ヵ所に押しつけて接種します。それ以外の場所に施すとケロイドなどの副反応が出る可能性が高くなるので、絶対に避けなければなりません。接種したところは、日陰で乾燥させてください。10分程度で乾きます。

(3) BCGワクチンの副反応


接種後10日頃に接種局所に赤いポツポツができ、一部に小さいうみができることがあります。この反応は、接種後4週間頃に最も強くなりますが、その後は、かさぶたができて接種後3か月までには治り、小さな傷あとが残るだけになります。これは異常反応ではなく、BCG接種により抵抗力（免疫）がついた証拠です。自然に治るので、包帯をしたり、バンソウコウをはったりしないで、そのまま清潔に保ってください。ただし、接種後3か月を過ぎても接種のあとがジクジクしているようなときは医師に相談してください。

副反応としては、接種をした側のわきの下のリンパ節がまれにはれることがあります。通常、放置して様子を見てもかまいませんが、ときにただれたり、大変大きくはれたり、まれに化膿して自然にやぶれてうみが出る場合があります。このようなときは医師に相談してください。

また、お子さんが結核にかかったことがある場合は、接種後10日以内に接種局所の発赤・腫脹及び接種局所の化膿等を来し、通常2週間から4週間後に消炎、癒痕化し、治癒する一連の反応が起こることがあります。これをコッホ現象といいます。通常の副反応における接種局所の様相の発現時期（おおむね10日前後）と異なり、接種後数日間のうちの早い段階で発現します。コッホ現象と思われる反応がお子さんにみられた場合は、すみやかに市区町村に相談あるいは、医療機関で受診してください。この場合、お子さんに結核をうつした可能性のある家族の方も医療機関を受診するようにしましょう。

(4) 接種時期

	3 か 月	5 か 月	8 か 月	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳	11 歳	12 歳	13 歳
BCG																

※  は標準的接種期間